のために美しい景色を勝手にさせてはいけないのではないか、というのが私どもの考え方であります。これは今後道路をつくられるうえで非常に大事なことですからどうか頭に入れておいていただきたいと思います。この点で非常に惜しいと思いますのは天草五橋です。天草五橋が出来ましたときにこれは天下の名勝が出来ると非常な期待をしておりましたが、行ってみたら橋のたもとのいいとこにはみんな茶店が出来ていました。景色が見えませんでしょう。天草五橋を見るのならば船に乗ってみる以外にはないと言う人さえいます。あの時橋のたもとだけはオープンにしておいて、茶店はわきでもいいですから景色をみんなの人に解放する。そうしますと天草五橋はもっともっと天下の名勝になったのではないでしょうか。仕方ございませんけれども、今後は、こういう点は茶店に私さしてはいけません。みんなのものだという考えでやっていただくことが必要ではないかという感じがいたします。

▲フェニックスを植え足し前面を解放。ドライブインは山側に。

■大切な清掃

もうひとつは日南海岸に行ってご覧になりますとわかりますが非常にきれいに掃除がしてございます。あれは私の会社でたえず手を入れております。

ロードパーク日南海岸を完全にする協定書を建設省と県と私の会社とでつくっております。県の方は行政指導で野外広告を立てさせない。つまらん家を作らせない。建設省は道路がこわれたらすぐ修繕をしてほしい。沿道の修景と清掃は宮崎交通で引き受ける。こういう協定書をつくりまして私の方で引き受けてやっております。相当金がかかります。金がかかって重荷でございますけれども、われわれが床屋に行くと男ぶりがあがりますように自然の景色も床屋に行かないと男ぶりがあがりません。たえず掃除をしますと景色の男ぶりがあがります。

一番大事なことは、つくるときには県でも市でも町でも予算がとれます。しかし、この修繕費ということになりますとなかなか予算がとれないのです。何故かというとこの修繕費は票にならないからです。ですからこれはよほど幹部の方に皆さんが力強く要望されないといけませんが、同時に出来るだけ床屋に行って来ておくことが必要ではないかと考えます。

◀埋め込み式のチリ箱（子どもの国で）

■球磨川沿岸に山桜と紅葉を

最後に熊本は実にうらやましいと思っております。熊本には天下の阿蘇がございます。あれほど立派な山をもっている県はございません。天草がございます。熊本城、山鹿の山鹿燈ろう、人吉の川下りがあります。その他いいものが沢山ございます。そのいいものを、もっとよくするためにどうすればよいかと皆さんが力をお入れになりますとこれはもっともっと光を持つことになりましょう。どういうふうにしたがいいかいちいちのことは申しあげられませんが、ひとつの例をとってみますと、人吉の川下りです。関西の十津川下りは別ですが、こちらで川下りの出来る川がございますか。人吉だけの川下り、これはすばらしいものだと思います。きよう表彰された方で、球磨川沿岸道にコスモスを植えて表彰された団体があります。あれも結構だと思います。

しかし私はもし川下りの周囲の山々に皆さんの力で山桜と山紅葉をうんと育てるような方法をとっていただくと、川を下りながら春は全山桜のかすみのような美しさが見られる。秋は燃えるような紅葉が見られるということになります。そうしますと人吉の川下りはもっと有名に

なってもっと沢山の人が来るようになりましょう。これはひとつの例でございますが、こういう方法をやればまだまだどんなにでもなるのではないかという感じがいたします。

■すばらしい熊本の伝統

私は熊本に参りますと六花というものに非常な関心をもっております。熊本にはあの六花で現わされておるように、とにかく何百年かの昔から美しい花を作る非常な伝統をお持ちでございます。これはすばらしいことだと思います。

六花の第一は何といっても肥後椿でございましょう。肥後椿は本当に豪華絢爛（けんらん）よくもあれほど立派なものを熊本の先輩は作り出されたものと私は感心しております。日本では妙な間違いがございまして、椿はポッタリと落ちるから武士の家には植えないとか、墓地にあったりお寺にあるから縁起が悪いのだとか伝説がございまして椿をあまり植えなくなりました。しかしこれはとんでもない間違いで徳川時代は日本で本当に椿を植えたのです。二代将軍秀忠は江戸城に椿をいっぱい植えたのです。江戸市民も椿を非常に愛好しあまりにも椿が盛んになりぜい沢になったものですからぜい沢禁止令で椿を禁止したわけです。墓にあるのは何故かというとあれは死んだ人の一番好きなものを植えただけのことです。お寺にあるのはお寺が好きだったからです。椿は本当に日本の大事な花です。日本で衰えている間に外国で盛んになりました。アメリカにはすでに国内だけで椿の会が一万ございます。サクラメントの市花は椿で椿の祭りをしています。世界の椿の会がございますがその会長は豪洲人です。これではならないというので近頃日本に椿を盛んにしようという椿熱がほうはいとして起っています。この椿熱の一番の中心は肥後椿です。これをみなさんお持ちなんですからこれは大事にしていただきたい。この豪華絢爛なる肥後椿に対して肥後菊は何んと清そな感じがすることでしょう。本当に美しい。あれほど立派なものを作りあげる伝統が皆さんのうちにあるのですから力を合わせてこの伝統を生かし、いろんなものを作られると知事さんのご熱意と一緒になって独持の美しい熊本づくりが出来るのではないだろうかという気がいたします。

■変化を求める旅人

このところ、観光が非常に盛んになりました。そしてすべての観光客が等しく提起しております問題がございます。それは観光ブーム結構だけれどもどこもこも同じになったという悩みでございます。私は観光政策審議会の委員をしておりますが、前々回のとき総理大臣の諮問に応じまして審議会で答申をいたしました。その答申は本になっておりますから、ご覧いただくとわかりますが、その時に観光の本質とは何かという問題を議論しました結果、観光の本質は変化を求める心にあるという結論になりました。変化を求める心が観光の本質である。だから都会の人は変化を求めて田舎にくる。田舎の人は変化を求めて都会の雑踏にとび込んでいく。こういう結論になります。ところが観光客は何と言うかというとこの頃はどこに行っても同じような町並みがある。同じような宿屋に泊って同じ様な朝めしを食わされたのでは旅の楽しみがなくなるとみんなおっしゃるのでございます。ですからどうしてもすべての町、すべての県は自分の顔をもたなければなりません。それぞれ自分の顔を持つことによって、はじめて旅人はここに来た甲斐があると思うようになるのでございます。その変化とその顔…私はいつも申すのでございますが、観光では人まねは駄目なんだ、自分で自分の内にあるものを盛りたてて、おれの顔はこれなんだという顔を作らなければならないと思います。よく言う言葉に百花撩乱（りょうらん）という言葉がございます。沢山の花が一緒に咲くのが百花撩乱の美しさでひとつの花では本当の美しさはない。梅は梅、桜は桜それぞれ美しく咲いてこそ百花撩乱の美しさが出るのでございます。熊本の美しさも皆様が熊本の本質は何か、熊本の本当の美しさは何かということをよくみられて、皆さんが持っておられるすぐれた伝統と技術をそれにつけ加えて立派な熊本づくりをされましたときに初めて熊本が本当に美しい熊本になるのではないかと思います。

宮崎は宮崎でつくる。鹿児島は鹿児島でつくる。みんながそれぞれの美しさを作りましたときそれが一緒になってはじめて南九州に日本中の人を呼ぶことが出来るのではないかと思います。

本日この会合に出まして皆さんのご熱心な動きを拝見いたし、またいろいろお話を聞いて皆さんのこの熱意が本当に実るならば立派な熊本づくりが出来るのではないかという大きな期待をもっておるわけでございます。

（注・この講演は、昨年十一月二十一～二十二日に行ないました美しい熊本づくり運動記念行事の一環として行なったものです。なお、紙面の都合により一部割愛させていただきました）